



ペットの世話をしない中学生の娘

中学生の娘がペットのウサギの世話をサボることに悩んでいます。10歳の時に自分で面倒を見る条件で飼いました。外での散歩はいらず、餌と水やり、トイレ掃除と家の中で散歩させるくらいです。かわいがりませんが、世話はしません。「ペットは生き物。おもちゃではない」と何度説明してもサボろうとするので、毎日声掛けをして一緒にやっています。勉強や部活、友達のことなどで忙しく、多感な時期とはいえ、自分が世話をしないと生きられない命の大切さや責任感を、どう理解させたらいいでしょうか。ゲームや縫いぐるみと同様に考えているのでしょうか。

先生、教えて！

子育て・教育相談コーナー



仙台市泉区
40代・会社員
からの質問

●回答してくれた人

吉田 和子さん

よしだ・かずこ 栗原市出身。大崎市松山中、古川東中、岩出山中校長を歴任。2019年から大崎市子どもの心のケアハウススーパーバイザーとして、不登校の子どもの支援などに取り組む。



「命の大切さ」ほど教えるのが難しいことはありません。人から教えられるのではなく、命と向き合う経験を積みながら学んでいくものと考えます。

ペットの世話をサボるお子さんについて「命の大切さを理解していないのでは？」と心配されているのかもしれませんが。例えば「死ね」「うざい」など人の命や心を傷つける言葉を言ったり、現実と仮想の世界が区別できず「命は何度でもよみがえる」と誤解したりしているわけではないでしょう。

ペットの世話を通し、命の大切さを教えたいというお気持ちは分かります。ペットを飼うことも命に触れる機会。お母さんと一緒に世話をしているお子さん

命に向き合う姿行動で

んにとって、命の大切さを学ぶ時間になっていると思います。

私たち大人は家庭や学校、社会のさまざまな場面、あらゆる機会に命の大切さを伝えていかなければなりません。理屈ではなく、大人が真剣に生死に向き合う姿、命を大切にすることを行動で示すこと。併せて子どもが「何よりも自分を大切に守ってくれる人がいる」「こんなにも愛されている」と実感できるよう育むことも重要です。

繰り返しますが、周囲の大人にできるのは命と向き合う機会や時間、愛情に満ちた環境を提供すること。多くの経験を通して命の大切さを学んで成長するお子さんの姿を、楽しみながら見守ってあげてください。

このコーナーは保護者からの子育てや教育についての相談を募集しています。メール、郵送のほかQRコードから応募できます。

▷記入事項 氏名、年齢、職業、住所、家族構成、電話番号、メールアドレス

▷宛先 〒980-8660 河北新報社
こども新聞係。メールアドレスkyo
pro@po.kahoku.co.jp

